



TAKAO 599 MUSEUM オープン



高尾山の豊かな自然の魅力を様々な形で発信する TAKAO 599 MUSEUM。8月11日にオープニングレセプションが開催され、多くの地域住民が足を運んだ。この高尾599ミュージアムの建設には江戸川大学社会学部鈴木輝隆特任教授がおおきな役割を果たした。取材・文／金芳辰樹



TAKAO 599 MUSEUM
東京都八王子市高尾町 2435 番 3
TEL 042-665-6688
開館時間
8:00～17:00 (4月～11月)
8:00～16:00 (12月～3月)
年中無休 入館料無料

施設の外装は木目を基調にしている。ガラス張りでの内側が見え解放感がある。モダンでありながらもどこか懐かしさを感じられ、自然に囲まれた景観と調和している。手入れされた芝生の緑と白を基調にした施設の内側がやさやかなコントラストをみせている。

1階のネイチャーウォールには高尾山に生息する虫や植物、ムササビなどの動物が剥製として飾られている。プロジェクトマップ、ピンクを使用して投影された映像とかさなって、壁に飾られた剥製がまるで生き

ているようだ。昆虫や草花をアクリル樹脂に封入して展示したネイチャーコレクションや、高尾山の見どころガイドなど充実したコーナーもある。

さらに多摩建材を使用したカフェも。観光に訪れた人たちが美味しいコーヒーを飲み、ゆったりとくつろげるスペースだ。



大黒大悟さん



鈴木輝隆特任教授

時間がかかったが最終的には全員一致で賛成を得られる計画案ができた。みんなの合意をえながらも妥協のない斬新な企画と先進的デザインも現実化した。地域の魅力とは何かを示す、地域活性化の道筋としてひとつの成功例が示された。

「デザイン重視のコンセプトのミュージアムです。どこにもないアイデアなので、デザインを担当した大黒大悟さんは、『できる限り、繊細、丁寧なデザインで、高尾山の魅力を表現しました』。おおくの人の思いをとりいれ、さらに訪れる人への気遣いを込めながらも筋のおつたデザインをくみ

鈴木教授は若く才能あるデザイナーやコピーライターらとともに、一つひとつを目に見る形でプランを提案していった。

2012年2月から住民を含め議論が繰り広げられた。鈴木教授が「高尾の里」拠点施設整備あり方検討会の座長を務め、常識的な標本展示でない、たんなる観光案内所ではない施設をと、多くの議論が重ねられた。

設計を提案するには、多大な苦勞があった。